





## 全国のはたらく刃物

鮭漁(北海道標津町).....	P16
革製品(東京都墨田区).....	P24
笹野一刀彫(山形県米沢市).....	P30
蹄鉄(栃木県宇都宮市).....	P36
根曲がり竹細工(長野市戸隠).....	P42
漆掻き(岩手県二戸市／青森県田子町).....	P48
硯(宮城県石巻市).....	P56
井川めんば(静岡市井川).....	P62
沼田桐下駄(群馬県沼田市).....	P66
臼(埼玉県飯能市).....	P72
船大工(三重県紀宝町).....	P78
仏像(東京都台東区).....	P86
挽き物(神奈川県小田原市).....	P90
竹細工(兵庫県三木市).....	P96
鯉節(静岡県西伊豆町).....	P100
猪肉(兵庫県篠山市).....	P106
桶・和樽(秋田県能代市).....	P112
江戸和竿(埼玉県川口市).....	P118
雨城楊枝(千葉県木更津市).....	P122
蝮備中の先掛け(愛知県豊橋市／新城市).....	P128

## 教育道具としての刃物

肥後守を使う小学校.....	P138
大学生の「小刀を使った箸作り」授業ルポ.....	P144
親子で料理ことはじめ.....	P148

## 鼎談:かくまつとむ×大橋弘×星野欣也

「今こそ手のちからの復権を」.....	P154
---------------------	------

## コラム

手のちから.....	P47
日本の手しごと.....	P77
刃物の復権.....	P105

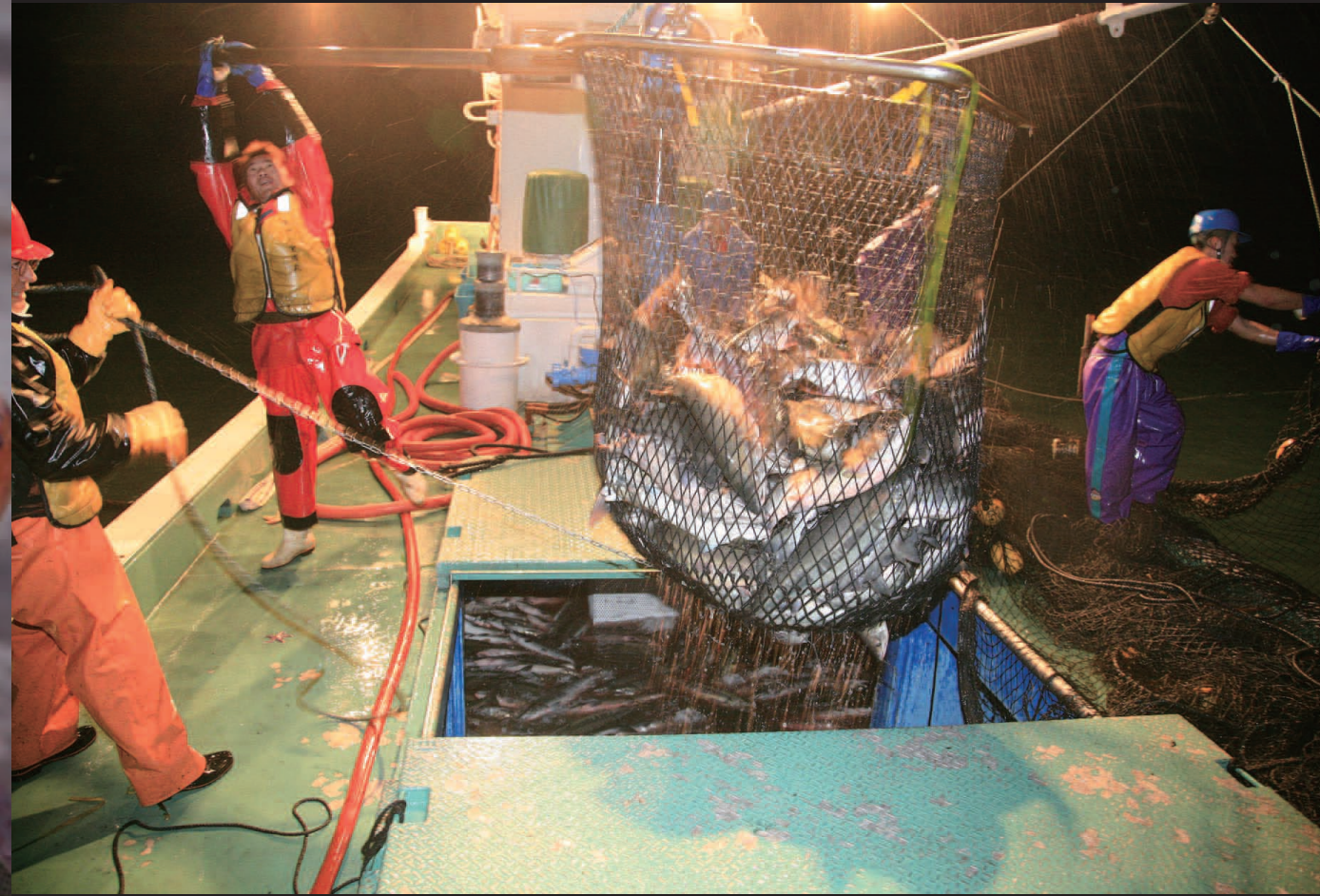
フォトギャラリー.....	P1
連絡先一覧.....	P158

# はたらく刃物





年季の入ったマキリ。船上の作業だけでなく、定置網の準備の時期も活躍する。大きな木鞘には竜虎や中国の故事に因む絵が彫り込まれている。



北海道標津郡標津町  
**鮭漁**  
漁師の魂を込めた道具





ロープをつないでいる青い紐をマキリで切って、ロープを船に繋ぐ。万が一、マキリを海面に取り落としても、柄が太いので沈まない。



標津の夜明けは早い、朝7時に始まるセリに間に合わせるため、出船は未明の3時ごろ。正味2時間の短い間に、落とし網から鮭を掬い揚げる。



落とし網の裾を絞るように揚げていくと、大きな秋鮭が姿を現わす。接岸の最盛期には一度では船に揚げきれないほど入るといふ。



身を乗り出し、もつれないように紐で結んである固定用のロープをつかみあげる。マキリが収まる丈夫な木鞘は、アクティブな動きにも安全性が高い。



若い衆がマキリのついたベルトを締め始めた。いよいよ鮭漁のハイライト、網揚げである。マキリは腰の後ろにまっすぐ装着する。図柄の入った大きな鞘は、海の男のシンボルだ。

## 鮭漁に不可欠な道具

午前3時10分。とも網を解かれた宝成丸(乗組員8人)が、エンジン音も高らかに標津の港を出る。漆黒の冷気を切り裂いて走る先は、南へ30分のところにある定置網だ。

宝成丸の定置網がある根室海峡は、日本有数の鮭銀座として知られる。すぐ近くには、明治以来、国がサケマス増殖事業のモデル地区として力を注いできた標津川が流れる。沖合い約20kmに浮かぶのは国後島だ。

長大な国後島は知床半島から根室に続く海岸線に並行する。その先は千島列島で、さらにはアラスカへとアリューシャンの島々が伸びる。地図で見ると、地形そのものが北洋から帰る鮭を標津へ迎える誘導路のような構造になっている。

根室海峡は標津川にのぼる鮭だけでなく、道南や遠く本州の川へ帰路を急ぐ鮭たちの街道でもある。鮭銀座と呼ばれるゆえんだ。

定置網は、海峡を通過する鮭を待ち受けるように、海岸線へ直角に張られている。鮭の足を止める垣網は1km余り。垣網の先には左右3つ、計6つの落とし網があつて、鮭を迷入させる。

標津の鮭定置網は沿岸42kmの間に28カ統認められている。最近でこそ首位の座を受け渡す年もあるが、標津は昭和60年から15年間、連続日本一で秋鮭の水揚げ

網起こしの最中にロープがスクリューに絡んだときなんかは、いちいち解いている暇はないから、マキリで素早く切っておいてあとで繋ぎ直します。

定置網の準備をする夏もマキリは欠かせません。ロープや網を切るには、かえって刃こぼれしたぐらいのほうがいいから、研ぎもそれほど念入りにはしなくても、漁師はみんなマキリを大事に使っていますよ。

マキリとはアイヌ語で小刀のこと。北海道のアイヌたちの間では、マキリは道具のシンボルだった。鉄が貴重だった江戸期以前、狩猟採集民のアイヌが鋼の刃物を持つことは、今の私たちが高級乗用車に乗るぐらいの価値であったとする論もある。

アイヌのマキリは作業別に名前があり、たとえばイナウマキリは、儀礼のための木彫を施すためのマキリだ。司馬遼太郎の『街道をゆく』38 オホーツク街道(朝日文芸文庫)によれば、イナウは食料になった生き物たちを慰霊する飾り掛けで、本土の神社などで見られる幣にあたるそつである。

アイヌは、獲物を獲ると送りの儀式として、白木を薄く削ってイナウを作った。イナウマキリはその作業に適した細身の小刀だ。盆や鉢などの丸みを帯びた木工作品を作るときは、湾曲の強いレウケマキリを使った。

好きなメノコ(娘)に手彫りの美しい鞘を贈る習慣もあった。翌日、その鞘をメ

を誇った。

この鮭定置網の準備から実際の漁、さらには水産加工の現場にいたるまで欠かせない短刀形の道具、マキリである。

## マキリは漁師の魂

エンジン音が弱まると、タバコを吸ったりのんびりと缶コーヒーを飲んでいた宝成丸の若い衆が、一斉に立ち上がる。そして、しびき避けにしているサロベットの素早くベルトを巻き始めた。船が定置網に近づいたのだ。

ベルト中央には、彫りの施された大きな木鞘に刃物の柄が深々と納まっている。マキリである。親方の西山良一さん(56歳)がいう。

「ここの漁師にとっては魂みたいな道具だね。こいつ一本提げれば、ほかに道具がいらないから便利ですよ。マキリは定置網の漁師には欠かせません。網起こしの際に船を固定する2本の綱があります。そのまま置いておくと潮にもまれてもつれやすい。そこで、網の先端どうしを紐で結わえておくんだけど、その紐を切るのに使うのがマキリなんです。網起こしは落とし網の数だけやるから、マキリも毎日6回は使う。」

マキリのいいところは、細身で取り回しがよく、鞘に収めて腰の後ろに提げておけば邪魔にならないところ。握りが太いから、水に落ちても沈まないしね。

ノコが腰に差していれば、求婚を受け入れた証であつたという。

博物館の資料を見る限り、アイヌのマキリと標津の鮭漁師が腰に提げているマキリとは微妙に形状が異なるものの、アゴがない細身の刃物であることや、賑やかな彫りを施した木鞘を好んで使う点は共通している。漁師のマキリがアイヌマキリの血を受け継いでいるのは明らかだろう。

「みんな提げているものだから、漁師は自分だけのこだわりを持ちたい。でも刃は金物屋で買う、ありものなんで、あまり凝りようがないんですね。それで鞘にこだわらるようになるんですよ。あいつが虎なら俺は龍だというふうに、人と違う図柄の鞘を買って。器用な人は暇な冬の間自分で彫ります」(西山さん)

## 海が伝えたマキリ文化

標津の鮭漁師が使うマキリをほぼ一手に扱っているのが、船具や金物の金田一商店だ。先代の金田一豊吉さんは鍛冶職人で、フックやアンカーなどの船具を鍛えていた。今も作業場には鍛冶屋時代の火床と機械ハンマーが残っている。

後を継いでいるのは、富山県の砺波から婿に来た優さん(48歳)だ。ポルトやVベルト1本の問い合わせにも親切・迅速に対応する好漢。もの作りも大好きで、10年ほど前から趣味でナイフ作りを楽しんでいる。

Published by  
WORLD PHOTO PRESS  
Publisher of Mono Magazine,  
World Wristwatch, Figure Oh,  
Knife Magazine, Combat Magazine,  
Mode Optique and World Mook Series

Editorial & Cooperate Headquarters;  
3-39-2 Nakano, Nakano-ku  
Tokyo 164-8551 JAPAN  
Tel: 03-5385-5648 (Editorial)  
Fax: 03-5385-5614  
Tel: 03-5385-5701 (Circulation)  
Fax: 03-5385-5703

Publisher  
Kesaharu Imai

Author  
Tsutomu Kakuma

Photographer  
Hiroshi Ohashi

Design  
Gaku Suzuki (WPP)

Editor  
Natsuo Hattori

Production Director  
Shunsuke Ogawa

Circulation Manager  
Hiroshi Sasagawa

Print  
Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Typesetting  
Sankyo Bijutsu Co., Ltd.

Correspondent,  
Washington, D. C. Bureau  
(Pictorial Press International)  
Norman T. Hatch  
Mikako Burks

ワールドフォトプレス ホームページ  
<http://www.monomagazine.com>

## 【日本の鍛冶文化を知るワールドフォトプレスのムック】



打刃物職人 (うちはものしょくにん)  
ワールド・ムック467  
定価2,000円 (税込)



千代鶴是秀 (ちよづるこれひで)  
ワールド・ムック596  
定価2,000円 (税込)



日本鍛冶紀行 (にほんかじきこう)  
ワールド・ムック633  
定価2,000円 (税込)



千代鶴是秀 写真集①  
ワールド・ムック650  
定価2,000円 (税込)



千代鶴是秀 写真集②  
ワールド・ムック736  
定価2,000円 (税込)

WORLD M O O K

ワールド・ムック913

平成24年3月25日発行 (通巻913号)

mono 特別編集

素材と道具、そして職人仕事の博物誌

# はたらく刃物

© WPP, Tsutomu Kakuma, Hiroshi Ohashi 2012 (禁・無断転載)

造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がございましたら「販売部」あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。本誌掲載記事の無断複製・転写を禁じます。

定価はカバーに表示しております。バックナンバーのお申し込みはインターネットをご利用いただけます。

<http://www.monomagazine.com>

編集・発行人 ● 今井今朝春

発行所 ● 株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

TEL : 03 (5385) 5648 [編集部]

03 (5385) 5658 [広告営業部]

03 (5385) 5701 [販売部]

FAX : 03 (5385) 5614 [編集部]

03 (5385) 5614 [広告営業部]

03 (5385) 5703 [販売部]

印刷所 ● 大日本印刷株式会社